

## まちづくり懇談会議事録

日 時：令和3年11月26日（金）18：30～20：02

場 所：中里公民館

出席者：8人

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

### 3. 懇談

(1) 第7次総合計画の策定について（別紙1・2参照）

(2) 自由懇談

### 4. その他（情報提供）

(1) 国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙3参照）

### 5. 閉会

《懇談内容》

#### 【自由懇談】

町民：うちは比較的若い町内なので、まだそれほど大きな問題ではないんですけど、町内の空き家が240棟とこの間バービーさんが言っていた、空いている家が多くなってきている、という話を聞きます。私の町内会にも空き家があります。実は中里地区でもつい2、3年前にアパートが結構できていたり、朝日4丁目なども次々家ができてくる。それから町営住宅も次々できてくるという状況です。古い住宅の活用という観点と、新しい住宅が次々できてくるという状況は、私の目から見ると住宅に対する町の総合的なイメージが見えない気がしています。古い家に対してもっと利用できるような支援がないかということと、それを含めて全体的に、古い住宅と言っても20年しか住めなければ、次の住まいはどうするんだという話になると思うんですけど、それに対するケアはどうするのか。高校の前に新しいアパートが立ったときは、まだこれだけ若い人たちがいる必要があるのかと感じました。古い住宅が取り残されているので。

町長：確か栗山の中心市街地は1.7㎏くらいでしょうが、中央・松風・朝日・桜丘含め、その1.7㎏の間に住宅が密集し、7割くらいの町民の方が集中して住まわれている状況です。ご指摘いただいた空き家と空き地の問題、それに絡む住宅の切り替えは、平地で見ると空き地が無いように見えるんですが、上空から映すとかなり空き地が点々とある。そのようなところで、古いアパートマンションについては次々と解体して、間や空いてるところに整備がされています。中里もそうかもしれません。そういう新陳代謝の中で住宅は新築される、生まれ変わっていくというのが実態です。ただそこで問題になってくるのが、空いているところが移動するだけであって、面積的には変わらないという問題がありま

すので、町としてはいかに集約化を図っていくかというところは、これからの市街地形成の中で問題になってくると考えています。古い住宅のリフォームについては、例えば若い方が移住定住にきた場合、リフォームした場合の支援を十分な額ではありませんが、しっかり制度化しているケースがあります。それと併せて、古すぎて危険な空き家になっている特定空き家が徐々に増えつつあるんです。そういったところは町からも色々な指導勧告をさせていただいていますが、中々その撤去には至っていません。空き家対策と、空き地を含めた土地の利活用は、ご指摘いただいたように、これからの市街地政策で大きな懸案になっています。

町民：空き家バンクのようなものは当然ありますよね。

町長：ありますが、少し条件が厳しいです。登録するという事は、次の方につなげるといのが一つの目的ですから、ある程度所有者の方がすぐに住んでいただける状況にした上で登録するという手続きがありますので、今、バンク登録の空き家は数件しかないんです。空き家の中にもまだまだ住めるところはありますから、なんとかいい方法が無いかと思っています。移住定住を進めていく中でご紹介できる場所があれば、今はコロナ禍により、どんどん相談件数が増えています。どこでもオンラインでできる仕事が増えてきましたので、地方に移住してきた都会の若い方々からの相談もあります。それを増やしながらやっていきたいです。

町民：学校関係ですけれど、今小学校が3つありますが、統合の予定はありますか。由仁、長沼あたりでも統合になっていますが、何故栗山はできないのかと思いました。それを教えてほしいです。

教育長：統廃合の問題はどここの地域もそうなんです、地域の理解を得なければなりません。空知全体で言いますと、1校50人というのが、大体統廃合のラインになってきます。角田も継立も今50人以上いる状況です。私が校長をしていた頃も今も、統廃合の話は聞いていませんし、それに向けての動きも役場としては持っていません。しかしながら、今後人口の推移が進んだとき、栗山小学校が1学級になる時代が来ます。そうすると文部科学省も道教育委員会も適正配置というものがありまして、学校の維持管理は2学級以上が適切、という指導があるんです。それに抵触することになります。私はその時期が一つの切れ目なのかなと考えています。また、少し細かい話になりますが、空知で統廃合が進んでいない地域は、深川と栗山のみです。砂川はもう決定しました。岩見沢の統廃合は、私が着任した平成31年4月からされています。なのでこの後学校数が減ります。やはり一番大きな問題は、適正な学級規模の維持が困難という点です。最終的には色々な理由があります。例えば2学級を維持するという事は、そこで集団活動になります。今は角田も継立も1学級もしくは2学級、2学年で授業をしています。2学年組み合わせると、他の学年に比べて結局担任は、半分の時間しか携わることができない。なので、教師一人一人に対する人数の観点から、授業が困難になっているのが現状です。地域の方に理解していただくのがまず第一。そして町内全体の、学校の規模の問題がその次に出てきます。いずれにしても、このまま将来的に3つの学校を維持することにはなりません。ですから、いずれは地域の理解を深めて、統廃合は進めていかなければなりません。

町民：地域の課題があるんだろうけれど、前はよく地域が衰退するという話があったと思う。角田や継立は、もう衰退しているどころか死んでいる。まず子どもたちについてのアンケートを町民や親に対してやっていないので、統合する気がないのかなと思う。ただの怠慢

じゃないか。学校維持に何千万というお金を使っている。中学校は統合したことで市街地に来て経費が浮いたわけだし、子どもたちに聞いても、小学校がバラバラなので、中学校に行く時、その学校からは10人ほどしかいない。少ない人数で、遠くの学校からだということではじめになる。そういう問題も出てきているのに、前向きな考え方を今までにな一つしていなかったのは怠慢じゃないか。

教育長：世代の違いによる意見の違いがあります。そこはソフトランニングさせていかなきゃならないのが事実です。先ほど申し上げました通り、50人を割った場合が統廃合のラインです。

町民：その基準は絶対守らなければならないものではないでしょうか？

教育長：全くそうではないです。ただ全体を見た場合に、そこを一つの目安に進めてきている地域が多いです。ですから、統廃合は人数に関わらず、いずれはしなければならない話です。そこについてどういう手立てをとるかは考えさせていただきたい。しなければならない話だというのは、その通りだと認識しています。現状、その一つの解消として、小学校同士の連携授業というのがあります。その学年が和やかに中学校に行けるように、私が校長の時にスタートさせています。色々な授業や行事を連携させて、できるだけ中学1年生のギャップが少なくなるようにやっています。なのでさまざまな問題点を解決するために、学校としてできることはやってきたというつもりです。

町民：3つ学校を抱えているわけだけれど、その中で校区、この学校に行きなさいというものを見直しは考えているんですか。

教育長：現状は考えていません。

町民：その区割りは昭和初期からこのままの状態であるわけだし、これだけ人間が少なくなっているのに、それを変えていかないというのは何か理由があるんですか。

教育長：校区を変えるという考えは、今のところ全くありません。統廃合については当然考えているんですが、校区を変更するとすると、また別の問題が出てくると思います。そのあたりは勉強させてください。このままでいくことはありません。

町民：栗っ子クリーン作戦を小学校でしていただいて、私共町内の方も参加させていただきました。子どもたちと一緒に清掃活動をして、町内会としても重要な行事として取り組んでいるんですけど、これは栗山町独自の取り組みなんですか。それとも道全体の取り組みなんですか。栗山の特徴である花いっぱい運動などとも連携する形で、どこかの町内会ではやっているそうですけれど、数少ない子どもと活動できる機会、いいんじゃないかと思います。それと、引率の先生方自体も町内会の活動に対して、普段から慣れていない先生が引率してくる感じで、子ども達がきれいになったと言うんですけど、きれいになる前に、町内の大人がやっているからきれいになっているという理解があまりない感じがして、ちょっと残念な思いをしながらやっています。せっかくの行事ですので、もっと大人も子どももやっている、その後自分もやってみる、という考え方を膨らませてほしい。

教育長：それは私が校長の時に始めたもので、学校では企画する権限が校長に委ねられているんです。ですから教育委員会が中心になると、また違う話になります。これは権限の違いで、こういう方向で、という通知はできます。その範疇で、学校の組織は文部科学省の定める中身がありますから、その中身で進んでいる仕事ということをご理解いただきたい。また先ほど、小学校同士の連携や小学校と中学校の連携の話がありました。コミュニティスクールというものがあるんですが、そこでの話ということになりますと、地域の

方々との話し合いの中の手順がありますので、生きてくると思います。クリーン作戦は、一つは保護者の方と一緒に、という目的があります。それで最初は、町内会の皆さんからということでスタートさせていただきました。ただ、事業の流れとして必ず振り返りということをしています。こういう活動をしました、この活動を今後どういう風につなげると良いのか、という時間を必ず取っています。粘り強くやっていかないと、それぞれの家庭のさまざまな考え方で集まっているものですから、中々進まなというのが事実なんです。授業としては、清掃に行くにあたって、必ず自分としてどういう風に生徒と関わっていくのか、終わった後はどういう風に関われたか、今後どういう風に発展させていくかという、授業内容の流れは決まっています。ただ、行動が伴っていないところは確かにあると思います。それと、先生の舵については中々厳しいことがあります。昔でしたら、地域に住んでその町内会の皆さんと一緒に、というのが当たり前でした。今は空知の先生は皆、通いで来ているんです。例えば栗山小学校ですと、職員の約3分の1は空知管外から来ています。石狩管内や札幌方面から通いで来ている先生方なんです。そういったところで、来たばかりの先生だと、中々地域の理解が進まないという悪循環になっています。ただ、年数が経っている先生との組み合わせで何とかしようと、学校で努力しているのかなと思います。その人事も、結局自分たちが要望する先生ばかりが来ないからです。組織的に校長を中心として、苦労しながら組み合わせしているのだらうと思いますので、そういった目で見てください。

町民：ありがとうございます。大変いい企画だと思いますので、協力させていただきたいと思います。

教育長：ありがとうございます。今は栗山小学校ですが、道の事業を受けて防災訓練もやっていたんです。今も継続してやっているんですが、徐々に広がってくると思っています。今、学校周辺の町内会と協力しながら防災訓練を土曜日にやっています。これも少しずつ広がっているという話を聞いています。ブラックアウトのようなことがあった時に、町内会の皆さんと避難所の関係から、町内全体に広がっていければと思います。

町民：道央廃棄物処理組合ができることによって、栗山のごみ処理場はどうなっていく予定ですか。

町長：まだ具体的な、ごみの分別や排出方法の決定はこれからですが、唯一決まっているのは生ごみについて、燃やすということで方針を決めていますので、生ごみの堆肥化施設で栗肥土を作っているんですが、その施設は廃止します。そして燃やすと灰が出ますので、そのための広域の処分場も併せて作るということです。それまでの灰は桜山の埋め立て処分場に出してもらいます。まだそれくらいの容量は十分あります。

町民：先週、桜山のごみ処理場にごみを投げに行き、木材の受け入れを役場で申請して持って行ったんですが、長物を持っていったら長物はだめですと言われた。町の役場では、引き取りますよと言われて持って行ったのに、現場に行ったら2メートル以上のものは引き取りできませんと言われた。町の方で、こういうごみは出せません、という紙をもらって、桜山のほうでは同じ紙で、2メートル以上のものはだめ、と書かれた紙を渡された。連携ができていないんじゃないか。また切って持ってきてくださいというのは二度手間になる。町がちゃんと連携を取っていたら、そういうことはしなくてよかったですので、もう少しちゃんと連携を取ってほしい。

町長：大変申し訳ございません。町の基準で業者は動いていますので、今後そういった行き

違いなどが無いようにいたします。

町民：新聞で、新しい施設の電気代が莫大にかかりそうという記事を見たけれど、町の負担は実質負担3億円と言っていたけれど、どうなるのか。3億円を超えるのか。

町長：新しい施設は焼却した時に発生する電気を使って、施設の維持管理費を下げるように、資源を循環させていく施設にするとのことです。あの施設は2市4町で運営する施設なので、維持管理についても按分して皆で納めます。栗山だけが負担するわけではありません。

町民：栗山の負担額を超える可能性はあるのか。

町長：実際に稼働してみなければ分かりませんが、なるべく抑えられる仕組みを考えていきます。

町民：ごみについてはどうなるかまだ分からないという話ですが、私は途中から栗山に引っ越してきて、栗山のごみの扱いは他に比べると複雑でした。だけどその意味合いはある程度、町民の皆さんが理解した上で、色々協力していらっしゃたんじゃないかと思います。ただ、あまり複雑すぎて、私も年を取ってからついていけないと思っていたところなんです。これから変わっていくようですが、木炭化も含めて、今まで栗山はどういう考え方でごみ処理をやってきたか、ある程度行き詰まったということでしょうけれど、この反省をきちんと記録に残しておいたらどうかと思いました。今のSDGsの先駆けのようなことを栗山はやっていたわけですから、ある意味将来に向けてのことになるかもしれないので、ちょっと手間がかかって面倒くさいかもしれないけれど、やる価値はあるかなと思います。

町長：これまでもごみの政策というのは、どこの町でも課題、重要な政策になるので、ずっと検証しながらやってきています。その中で、栗山町のごみ政策の基本的な考えは、今分別でお手数をかけていますけれど、燃やせばごみだと。それで今、SDGsの話がありましたけれど、栗山の方で先駆けのようなことをやってきたという事実はあります。ただ、その中で失敗した政策もありました。ごみの炭化などです。炭化施設については、圧力調整が上手くいかなかったというのと、色々なものが入り込んで、機械に負担をかけて爆発して壊れてしまった。そのような苦い経験があります。そこをしっかりと検証して、これからのごみの政策をどうしていくかという議論の中で、広域のごみ処理連合に入るかどうかという話になったわけです。最初は、栗山も今の考え方で行こうということで、その広域に入ることはしなかったんですが、さらにその後検証を進めていく中で、今の埋め立て場が半永久的にあるわけではなく、またどこかに将来作らなきゃならないとなったわけです。比較をした中で、何が一番なのかを議論した時に、この広域に参加させていただき、大きな焼却施設の中で対応していくのがいいだろうという、二転三転と方向は変わっていましたが、今向かっていく方向が最後の方向になるのではないかなと思っています。

町民：堆肥化しなくなることで、栗肥土がなくなっていくのは残念です。

町長：栗肥土を活用されていた方は非常に残念かもしれません。これまで栗山が進んできた政策が少し変わっていくのも、それによってあるのかもしれないかもしれません。やはり堆肥化施設があることで、臭気の面で迷惑をかけていた地域があります。そういった方々ともお約束をしていることですので、堆肥化施設については、この機会に廃止させていただきます。農業者の方は今、肥料代が高くなってきているということで、栗肥土のような完全な形じゃ

なくてもいいから、農家に何か還元できることはないかという意見をいただいたんですが、やはり何か処理していくことになると、臭気などの色々な問題が出てきますので、中々難しいかなと考えています。ものすごい臭いなのです。

町民：汚泥も堆肥化して栗肥土にしていたと思うんですが、その処理はどうなりますか。

町長：汚泥処理については、町外の業者に出す予定をしています。今我々が比較しているのが、広域化すると、建設費用にかかった借金の返済も、栗山町の方はしなきゃならない。そしてその施設の維持管理、その他の運搬費について、相対的なごみの経費と現在のごみの経費を比較した時に、やはり広域の方がコストが低いという検証をしています。また、将来的に、埋め立て処分場を増設していくことになると、場所の問題がありますので、これが一番のネックです。やはり迷惑施設ですから、地域の方は自分のところに持ってきてほしくないわけです。だからその選定は困難を極めるという判断です。なので今は、広域の形に持って行くということになっています。

20：02 終了